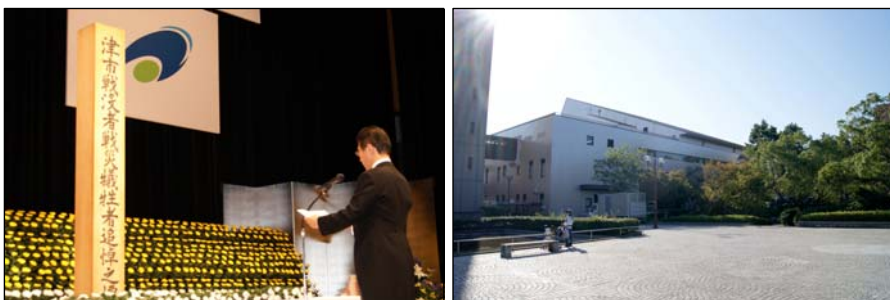


1 津市戦没者戦災犠牲者追悼式



開催概要（平成23年度）

歳事名：津市戦没者戦災犠牲者追悼式

会場：津リージョンプラザ

（近鉄電車 津新町駅 徒歩10分）

日時：10月27日（木） ※例年10月下旬開催

参列者数：440人

連絡先：津市健康福祉部 福祉政策課 059-229-3283（直通）

式次第（平成23年度）

1. 開式のことば：津市副市長
2. 黙とう
3. 式辞：津市長
4. 追悼のことば：津市議会議長、遺族代表
5. 献花
6. 平和のちかい：津市長
7. 閉会のことば：津市健康福祉部長

式辞（平成23年度）

本日ここに、多数のご遺族並びにご来賓の皆様をお迎えし、「平成二十三年度津市戦没者戦災犠牲者追悼式」を挙行するにあたり、津市を代表し、謹んで哀悼の言葉を申し上げます。

私が小学生の頃、祖母が津の空襲について語ってくれました。祖母は、当時の宿屋町、現在の東丸之内に住んでおり、昭和二十年のたび重なる激しい空襲のたびに防空壕へ逃げ込み、空襲警報が鳴りやんで外へ出てみると、降り注ぐ焼夷弾によって、生家も町並みも焼き尽くされ、焦げ臭さが一面にただよっていたという話です。

祖母にとっては、思い出すのも辛い経験だったのですが、多くの尊い命が失われ、見るも無惨な焼け野原にたたずんだ苦しすぎる思い出を通じ、戦争とはいかに悲惨なものであるかを伝えずにはいられなかったのでしょう。

ありのままの過去の光景を見つめ、語る祖母の苦渋の顔つきが、私の脳裏に今も鮮明に焼きついて離れません。

戦後生まれの私にとって、祖母の体験談は戦争の悲惨さと、おろかさについて、身をもって教えてくれたものであり、戦争を知らない私の心にも、深く悲しく刻まれております。

祖母の二人の弟は、祖国に残してきた父母や姉を案じつつ、雪の舞う中国大陸、そして灼熱のニューギニアで、激しい戦いの中で銃弾に倒れ、帰らぬ人となりました。

同じように戦禍に遭われ、尊い命を亡くされた皆様が無念さをしのぶとき、言葉で言い表せない苦しみや哀しみがこみ上げてまいります。

かけがえのない最愛の肉親を失い、決して癒されることのない深い悲しみを胸に、幾多の苦難を乗り越えてこられましたご来臨の皆様のご心労や血のにじむようなご努力に対しまして、深甚なる敬意を表する次第でございます。

先の大戦が終わりを告げてから既に六十六年が過ぎ去りました。戦後日本は、荒廃と焦土の中から復興への道を歩み始め、世界的にも目覚ましい経済発展を遂げてまいりました。

現在、当たり前のように享受している平和と繁栄が、多くの犠牲者と、深い悲しみを背負い、廃墟の中から今日まで歩んでこられた皆様方のご労苦の上に築かれていることを決して忘れることなく、私たちは、将来を担う次の世代に戦争の悲惨さ、命の尊さ、そして、平和の大切さを伝えていかなければなりません。

今、世界の各地で紛争や衝突が起こり、人々の尊い血が流れています。

不安が取り巻く現代であるからこそ、今を生きる私達が本当の意味で、「平和の尊さ」を見つめ直していくことが大切であります。

平和への気持ちこそが、人間の本质そのものであると思い、その実現のために一丸となって前進していかなければならないと思います。

私はこの式典に当たり、先の大戦から学び取った多くの教訓を胸に、二度とこのような戦争が繰り返されることのないよう、平和への誓いを新たにしております。

最後になりましたが、戦没者・戦災犠牲者の皆様のご冥福をお祈り申し上げますとともに、ご遺族並びに関係者の皆様方の今後のご平安を切に祈念いたしまして、式辞といたします。

平成二十三年十月二十七日

津市長 前葉 泰幸

2 勤労働員学徒爆死者の供養塔



基本情報

所在：兵丹池
住所：三重県津市上浜町6
(JR・近鉄電車・伊勢鉄道 津駅 徒歩15分)
連絡先：深正寺 059-228-4554
建立者：名古屋市立機械工業学校 卒業生竹秋会
建立年：昭和26年6月24日

碑文

【表】

供養塔

【裏】

昭和二十六年
六月二十四日建立
發起者
名古屋市立
機械工業学校
卒業生竹秋会
津市上浜町
石工 秋田吉之助刻

【右側面】

殉職者氏名
昭和二十年六月二十六日
(氏名)
昭和二十年七月二十四日
(氏名)

【左側面】

殉職者氏名
昭和二十年六月二十六日
(氏名)

説明文

この地藏尊は、昭和二十年の初夏、学徒勤員中空襲を受けてこの地で亡くなられた名古屋市立機械工業学校の先生と生徒を追慕し、その友人達が建立したものである。

津市上浜町二丁目 深正寺

十四歳数ヶ月で被爆した私達も七十七歳を迎えます。いついつ迄も平和を願う無言の語り部でありたい。お近くの皆様の暖いご好意に感謝いたしております。

平成十九年六月
工業商業 墓参会

3 神戸国民学校の教員殉職碑



基本情報

所在：都合により記載せず
住所：三重県津市神戸字小世古1680-1
(近鉄電車 津新町駅より 三重交通バス「神戸小学校口」下車 徒歩2分)
連絡先：都合により記載せず
建立者：昭和四十一年度 津市立神戸小学校 PTA役員、教員一同
建立年：昭和42年4月7日

碑文

【表】

慰霊碑

(故人名)

題字 津市長 角永清書

【裏】

昭和二十年四月七日太平洋戦争当時
学校に於て爆撃(略字)の為殉職す

昭和四十二年四月七日建立

発起人

昭和四十一年度

PTA役員、教員一同

碑石寄贈

(個人名)



4 谷中平和の碑



基本情報

所在：国道39号沿い 不動寺南側
住所：三重県津市美杉町八知（谷中）
（JR伊勢八知駅より 車10分）※JR線は運休中
連絡先：津市美杉総合支所 059-272-8083
建立者：平成7年度 美杉村立八知小学校 在籍児童
建立年：平成8年3月12日

碑文

【表】

平和

【台座・表】

山青く水清らかな谷中
二十軒余の静かな暮らし
一九四五年七月二十四日
昼下がり谷中に爆弾が
落とされた
薬草採りの小学生
川遊びの幼ない児
奪われた尊い七つの命
五十年の時を過ぎて
いまここによみがえる
八知小学校児童の
平和への願いとなって
私達はこの出来事を
忘れまい
人の世の未来のために

平成八年三月吉日

題字は美杉村長 結城敏氏

5 四日市空襲殉難碑



基本情報

所 在： 鶴の森公園
住 所： 三重県四日市市鶴の森1-251
(近鉄電車 近鉄四日市駅 徒歩5分)
連絡先： 四日市市 福祉部 福祉総務課 059-354-8109 (直通)
建立者： 四日市空襲殉難碑建立委員会
建立年： 昭和55年6月18日

碑 文

【表】

平和の誓い
四日市空襲殉難碑

【裏】

殉難碑撰文
昭和十六年十二月八日に勃発した太平洋戦争は、ポツダム宣言受諾によって、同二十年八月十五日遂に我が国の敗戦に終った。
この間、アメリカ空軍重爆撃機B29による日本本土への空襲は日ましに激化し 戦機はとどまるところを知らなかった。海軍燃料廠をはじめ多くの工場群を擁した四日市市も、前後六回にわたる苛烈な爆撃により壊滅的被害を受けた。
わけでも最初の爆撃を受けた六月十八日の災禍は惨憺の一語に尽きる。即ち午前零時四十五分頃から約一時間にわたり、B29三十五機の、三万発におよぶ油脂焼夷弾等の絨毯爆撃により市街地は灼熱のろつぽと化し、退路を断たれた多くの市民は、阿鼻叫喚の巷を彷徨した。炎の犠牲となるもの、壕に閉され窒息死するもの、身をかりみず消火に一命を賭するもの、あわてて八百余名にのぼった。恐怖の一夜が明けると、一望焦土と化した焼跡に、ただ茫然とたたずむもの、未だ硝煙のくすぶる中を、肉親を求めて右往左往するもの、まさに戦争のうたの悲劇である。
終戦後三十五年を経た今日、各方面の浄財によって、ここに新しく四日市空襲殉難碑を建立しその霊の安らかなることを願い、後世悲惨なる戦争の絶滅を期し、世界永久の平和を祈念するものである。

四日市空襲被災記録
被爆年月日 昭和二十年六月十八日、同二十二年、同二十六年
同 七月九日、同二十四日、同二十八日
戦災死者 八百余名
重軽傷者 一、七三三人
被災人口 四九、一九八人
被災戸数 一〇、四七八戸

昭和五十五年六月
四日市空襲殉難碑建立委員会

6 四日市空襲犠牲者慰霊献花式



開催概要 (平成23年度)

歳 事 名： 四日市空襲犠牲者慰霊献花式
会 場： 鶴の森公園 四日市空襲殉難碑 前
(近鉄電車 近鉄四日市駅 徒歩5分)
日 時： 平成23年6月18日(土) ※例年6月18日開催
参列者数： 約30人
連絡先： 四日市市 福祉部 福祉総務課 059-354-8109 (直通)

式 次 第 (平成23年度)

1. 一同黙祷
2. 市長式辞
3. 献花

式 辞 (平成23年度)

本日、ここに四日市空襲犠牲者慰霊献花が執り行われるにあたり、戦禍の犠牲となられました方々の御霊に対しまして、謹んで追悼の言葉を申し上げます。

六十六年前の今日、本市は大規模な空襲を受け、市街地は一面の焦土と化しました。八百八人もの尊い命が失われ、罹災者は四万九千九百九十八人にもものぼり、また、家財も焼き尽くされました。ここにご参列の皆様には、愛するご家族を失われ、今なお悲しみの中にあることとご心中をお察しするところでございます。

歳月は流れ、親から子へ、子から孫へと世代が交代しつつありますが、私達はこの惨事を風化させることなく、戦争の悲惨さを後世に伝えるとともに、今日の平和と豊かな生活が、尊い犠牲の上にあることを決して忘れてはなりません。

本市は、かけがえのない地球の平和とわが国の美しい自然を守るため、昭和六十年に非核平和都市となることを宣言し、地球上からすべての核兵器が廃絶される日が来ることを切望しております。

世界ではいまだ戦争、民族紛争、宗教上の対立などが後を絶ちませんが、憲法において永久に戦争を放棄した私達日本人は、同じ過ちを繰り返すことのないよう、最善の努力をしていかなければなりません。

ここに、恒久の平和と不戦の誓いを新たにするとともに、四日市空襲犠牲者の御霊の永久(とわ)に安らかならんことをお祈り申し上げ、また合わせて、本日ご参列の皆様のご健勝、ご多幸を祈念いたしまして、追悼の言葉とさせていただきます。

平成二十三年六月十八日
四日市市長 田中 俊行

7 伊勢市戦争犠牲者追悼式



※写真提供 伊勢市

開催概要 (平成23年度)

歳事名：伊勢市戦争犠牲者追悼式 ※一般戦災死没者を含む
 会場：伊勢市生涯学習センター「いせトピア」多目的ホール
 (JR・近鉄電車 伊勢市駅より 三重交通バス「いせトピア」下車 徒歩2分)
 日時：平成23年10月21日(金) ※例年10月中旬～下旬開催
 参列者数：291人
 連絡先：伊勢市健康福祉部 生活支援課 0596-21-5557 (直通)

式次第 (平成23年度)

1. 開式の辞
2. 「君が代」斉唱
3. 黙祷
4. 式辞：伊勢市長 鈴木健一
5. 追悼の辞：伊勢市議会議長、伊勢市連合遺族会会長、伊勢市総連合自治会会長
6. 来賓紹介
7. 電報披露
8. 献花：伊勢市長、伊勢市議会議長、伊勢市連合遺族会会長、伊勢市総連合自治会会長、遺族代表(女性部、遺児部等)、来賓
9. 閉式の辞

式辞 (平成23年度)

本日ここに、多数のご遺族、ご来賓の皆様をお迎えして、平成23年度伊勢市戦争犠牲者追悼式を執り行うにあたり、戦没者、戦災死没者、引揚物故者の御霊に対しまして、謹んで哀悼の誠を捧げます。時の流れは早く、数多くの尊い命が失われた先の大戦から、66年の歳月が過ぎ去りました。苛烈を極めた戦闘の中で、愛する家族を案じつつ戦場に倒れた方々、激しい空襲によって命を落とされた方々、そして戦後、異郷の地で無念にも最期を遂げられた方々に思いをはせるとき、今なお悲痛の思いが胸に込み上げてまいります。

ここに、改めて戦争犠牲者の方々のご冥福を、心からお祈り申し上げます。

また、ご遺族の皆様方におかれましては、最愛の肉親を失い、癒されることのない深い悲しみを背負いながら、数々の苦難を乗り越えてこられました。皆様のご苦労に対しまして、深く敬意を表する次第でございます。

戦後、わが国は、一貫して平和の道を歩み、国民のためめ努力により幾多の困難を克服し、世界に類を見ないほどの発展を遂げてまいりました。

しかしながら、現在、私たちが享受している平和と繁栄が、多くの尊い犠牲の上に成り立っているという事実を、決して忘れてはなりません。過去を謙虚に振り返り、悲惨な戦争の教訓を語り継いでいくことは、今を生きる私たちに課せられた重要な使命であります。

一方、世界に目を転じますと、各地で武力による争いが繰り返され、今もなお、多くの人々が尊い命を失っています。世界の恒久平和の実現は、人類共通の願いであり、私たち一人ひとりが、平和で住みよい社会を築くため、努力を続けていかねばなりません。

さて、本年3月11日に発生した東日本大震災は、未曾有の被害をもたらし、数多くの人命、豊かな故郷、穏やかな生活を奪い去りました。お亡くなりになった方々のご冥福をお祈りするとともに、被災された方々に心からお見舞い申し上げます。震災から半年以上が過ぎた現在も、懸命に復旧・復興に向けて取り組んでおり、その道のりは非常に厳しいものがありますが、戦後の廃墟から立ち上がり、奇跡的な復興を成し遂げた経験を持てれば、必ずや再生できるものと信じております。

本日私は、散華された方々の祖国発展への思いを深く心に刻み、豊かな自然に恵まれた伊勢の地を、再び戦火にさらすことなく、希望に満ちあふれ、安心して暮らせる伊勢市の実現に向けて、なお一層の努力を重ねることをお誓いいたします。

終わりに、すべての御霊の安らかなご冥福と、ご遺族の皆様のご健勝、ご多幸を心からお祈り申し上げます。式辞といたします。

平成23年10月21日 伊勢市長 鈴木健一

8 平和祈念碑



基本情報

所在：昌久寺
住所：三重県伊勢市一色町1609
(JR伊勢市駅より 三重交通バス「一色町」下車 徒歩3分)
連絡先：都合により記載せず
建立者：一色町慰霊碑 建設委員会、個人であり記載せず
建立年：平和記念碑 (一色町慰霊碑 建設委員会) 昭和37年10月
平和記念碑 (個人であり記載せず) 昭和47年10月

碑文

平和記念碑
(3碑の向かって左)

【表】

慰霊碑
(犠牲者20名氏名)
天額 齊藤 昇 謹書

【裏】

各位は大東亜戦争に於て國家の犠牲となる寔に痛惜の情を禁じ得ない茲に町民挙って謹んで各位の霊を弔い深甚の敬意を表して慰霊の碑を建立する
昭和三十七年十月
一色町慰霊碑 建設委員会

平和記念碑
(手前)

【表】

一色町は大東亜戦争に際し昭和二十年六月十五日に戦災を蒙り家財の焼失四十八戸人命の犠牲者十四人及び同年七月二十九日家財の焼失百十三戸人命の犠牲者五人を数えるこの事実は永久に町民の脳裏に深く刻みつけられるであろうここに永遠の平和を祈念する為此の碑を建てる

【裏】

昭和四十七年十月
(個人名) 蔵

9 松阪市戦没者追悼式



※ 写真提供 松阪市（写真は平成22年度のもの）

開催概要（平成23年度）

歳事名：松阪市戦没者追悼式 ※一般戦災死没者を含む
会場：松阪市民文化会館
（JR・近鉄電車 松阪駅より 鈴の音バス「市民文化会館」下車 徒歩1分、車7分）
日時：平成23年11月18日（金） 例年11月中旬開催
参列者数：約1,000人
連絡先：松阪市 福祉事務所 福祉課 0598-53-4089（直通）

式次第（平成23年度）

1. 開式のことば：福祉事務所長
2. 国家斉唱：出席者全員
3. 式辞：市長
4. 一同黙とう：出席者全員
5. 追悼のことば：遺族会連合会会長、市議会議長、県議会議員、遺族代表
6. みたま讃歌斉唱
7. 献花：市長、来賓、遺族代表
8. 遺族代表謝辞：遺族会連合会副会長
9. 閉式のことば：福祉事務所長

式辞（平成22年度）

本日ここに、多数のご遺族の方々をお迎えし、松阪市戦没者追悼式を挙行するにあたり、先の大戦で亡くなられた戦没者すべての「みたま」に、謹んで哀悼の言葉を申し述べます。

先の大戦では、凍てつく大陸で、あるいは灼熱の南方地域で、祖国の平和と発展、そして何より家族の安泰を念じながらも、多くの方々が苛烈な戦場で傷つき、または戦後に至るまで国外に残され、飢えや病気に苦しみながら、帰らぬ人となりました。

内地においても、激しい空襲により、たくさんの尊い命が失われました。ご遺族の皆様、の時を経てもなお癒されることのない深い悲しみと追慕の念に思いを致す時、戦後社会のなかで育てられた私にも万感、胸に迫るものがあります。

私も以前、アフリカの戦地跡において医療活動を行ってまいりました。人が「平和」を壊すのは簡単ですが、その傷跡を回復させ、一人ひとりの幸せな生活を取り戻すことの難しさは、自分自身の肌で感じました。

アメリカのオバマ大統領が「核兵器なき世界」を訴えたものの、アメリカをはじめとした多くの国々が平和に向けた取り組みを具体的に進展させているとは到底思えない現実もあります。

特に、私たちが住む日本においては、先人がいのちを懸けて守ってきたこの国を毅然とした外交姿勢で次の世代に伝えていかねばならないとともに、「戦争なき世界」「核なき世界」という当たり前の理想を貫き続けねばと感じています。

一人ひとりの幸せを守り、将来の世代にまでこの日本の良さ、そして松阪の素晴らしさを残していくためにも、私たちは不戦と恒久平和への誓いを常に心に誓い続けなくてはなりません。

本日の追悼式に臨み、悲しみの歴史を繰り返さないとの決意を新たに、戦争の史実と教訓を風化させることなく、私たちの子どもの、また子どもの世代にまでしっかりと語り継ぎ、不戦と平和を守り、温かくお互いを思いやれる社会の創造に一層の努力を重ねますことを、ここに固くお誓いいたします。

終わりに、戦没者の皆様のご冥福をお祈りし、ご遺族の皆様のご健勝とご多幸を祈念いたしまして、追悼のことばといたします。

平成二十二年十一月十八日
松阪市長 山中光茂

10 桑名市戦没者追悼式



※写真提供 桑名市

開催概要（平成23年度）

歳事名：桑名市戦没者追悼式 ※一般戦災死没者を含む
会場：桑名市民会館 小ホール
（JR・近鉄電車・養老鉄道 桑名駅、三岐鉄道 西桑名駅 徒歩15分）
日時：平成23年10月7日（金） ※例年10月上旬開催
参列者数：260人
連絡先：桑名市 保健福祉部 福祉総務課 0594-24-1168（直通）

式次第（平成23年度）

1. 開式のことば：桑名市保健福祉部長
2. 国歌斉唱：一同起立
3. 式辞：桑名市長
4. 黙とう：一同起立
5. 追悼のことば：桑名市遺族会副会長、桑名市議会議長、三重県議会議員代表など
6. 献花：来賓ならびに遺族、一般参列者
7. 閉会のことば：桑名市遺族会会長
8. 閉式のことば：桑名市保健福祉部長

式辞（平成23年度）

本日ここに、ご遺族、ご来賓の方々をはじめ、多数の皆様のご臨席のもと、桑名市戦没者追悼式を挙行できますことは、誠に意義深く、謹んで哀悼の誠をささげます。

数多くの尊き命が失われた先の大戦から、早六十六年の歳月が過ぎ去りました。祖国の平和と発展を願い、家族の安泰を念じつつ、苛烈を極めた戦闘の中で、傷つき斃れ、あるいは戦後に至るまで、異境の地に残され、飢えや病に苦しみながら、帰らぬ人となった方々の無念に思いを馳せますと、万感胸に迫る思いでございます。

ここに改めて、戦没者の方々のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

また、最愛の肉親を失われ、決して癒されることのない深い悲しみを胸に、六十六年もの歳月を経た今日に至るまで、長い苦難の道を歩んで来られました、ご遺族の皆様的心情を拝察いたしますと、悲痛の思いが胸に迫ってまいります。

皆様のそのご苦勞に対し、改めて心から深甚なる敬意を表するものでございます。

今日、私たちが当たり前のように享受している平和と繁栄は、戦禍の中で散華された、幾多の重く尊い犠牲の上に築き上げられてきたものでございます。

今日でも世界に目を転じますと、テロや地域紛争が後を絶たず、今もなお、多くの人々が傷つき、苦しんでおり、世界平和への道のりは、いまだ遠いことを痛感せざるを得ません。

こうした現実を前に、私たちは今こそ、戦没者の方々が、かけがえのない命をもって、示された戦争の悲劇さと平和への尊さを、深く心に刻み、未来を担う次の世代にしっかりと継承していかなければなりません。

私たちすべての世代の人々が、悲しみの歴史を繰り返さないとの決意を新たにするとともに、戦没者の方々が、かけがえのない命をもって示された戦争の悲惨さと平和の尊さを、風化させることなく、次の世代へと語り継ぎ、希望に満ち溢れ、健康で心豊かな平和な社会を未来永劫に実現していくことが、私たちに課せられた使命であると信じ、全力を尽くすことを、ここに誓うものでございます。

終わりに、戦争の犠牲となられたすべての方々の御冥福と、御遺族の皆様のご御多幸を心からお祈り申し上げまして、式辞といたします。

平成二十三年十月七日
桑名市長 水谷 元

11 桑名空襲慰霊之碑



基本情報

所 在：貝塚公園
 住 所：三重県桑名市内堀5-2
 （JR・近鉄電車・養老鉄道 桑名駅より 三重交通バス「立教小学校前」下車 すぐ）
 連絡先：桑名市 保健福祉部 福祉総務課 0594-24-1168（直通）
 建 立 者：桑名市
 建 立 年：平成10年7月

碑 文

【表】

桑名空襲慰霊之碑

桑名市長 水谷 元

【裏】

桑名空襲のすがた

太平洋戦争が終結する昭和二十年（一九四五年）七月十七日未明米軍機B29爆撃機九四機が桑名に來襲し、焼夷弾十数万発を投下した。市民の逃げ惑う様子はさながら阿鼻叫喚の生き地獄であった。

さらに七月二十四日の白昼B29爆撃機が1トン爆弾八八発を投下し、これにより多くの尊い命が奪われた。（面積当りの爆弾投下量は七ー一トンで全国一であった）。

この空襲の悲惨さを後世に残すと共に二度とあってはならない戦争の恐ろしさを永きに亘り語り継ぐ礎として、爆撃を受けた貝塚公園に碑を建立する。

罹災状況

罹災地面積 六九一、二〇〇坪
 罹災戸数 六、八三五戸
 罹災者数 二八、四四七人
 死亡者（身元不明者含む） 六五七人

平成十年（一九九八年）七月建立

12 桑名空襲犠牲者追悼式



開催概要（平成23年度）

歳 事 名：桑名空襲犠牲者追悼式
 会 場：貝塚公園 桑名空襲慰霊之碑 前
 （JR・近鉄電車・養老鉄道 桑名駅より 三重交通バス「立教小学校前」下車 すぐ）
 日 時：平成23年7月17日（日） ※例年7月中旬開催
 参列者数：約130人
 連絡先：桑名空襲遺族会事務局（星野方） 0594-22-5912（代表）
 桑名市 保健福祉部 福祉総務課 0594-24-1168（直通）

式 次 第（平成23年度）

1. 開会のことば：桑名空襲遺族会副会長
2. 主 催 者 挨拶：桑名空襲遺族会会長
3. 黙 祷：参加者全員
4. 追悼のことば：桑名市長、桑名市議会議長、三重県議会桑名選出議員代表
5. 献 花：桑名空襲遺族会会長、桑名市長、来賓、遺族代表
6. 電 報 披 露
7. 会引きの言葉：桑名空襲遺族会副会長

概 要

桑名空襲犠牲者追悼式（平成23年7月17日）貝塚公園桑名空襲犠牲者の慰霊の碑は、元は走井山に戦争の戦死者と合同でまつてありましたが、平成10年7月に貝塚公園に桑名空襲犠牲者の方だけ移転いたしました。今日第14回追悼式を7月17日に貝塚公園で行います。

桑名空襲のあゆみは…

第1回目は昭和20年1月31日ハリマの田園と西桑名の山林に各1発爆弾投下、第2回目は3月11日旧東海道と浅川通の民家の庭に投下、第3回目は5月17日坂の下に焼夷弾を民家に投下、15戸を焼き、2名の罹災犠牲者が初めてでました。

第4回目7月17日未明焼夷弾大空襲で市街地は焦土と化しました。17日午前1時25分から2時40分にかけてB-29、94機が100ポンド焼夷弾5、837発、500ポンド焼夷弾2、460発、計8、297発が投下されました。

市街地77%、山本重工30%、三菱重工80%が破壊されました。この空襲で、本町、江戸町、宮通、内堀、元赤須賀と外側から投下され、反転して、鍋屋町、矢田礮が外側に投下され、市街地が明るくなるのを待って中心部に投下され焼野原になりました。

私も最初は防空壕にかくれていましたが、付近に火の手があがって、燃えだしたので、急いで裏の田園に逃げて、土手に身を隠して朝までおりました。死ぬ思いでした。

第5回目は7月24日午前10時55分B-29、123機が500キロ爆弾48発、1トン爆弾794発を桑名駅周辺と東洋ペーリング、堤原、今中町、太一丸、近鉄の鉄橋に投下しました。

最後に7月30日昼中P51艦載機による機銃掃射により三菱重工の社屋に3発落とし、5名が亡くなられました。他にも貝須にも3発落ちました。

罹災戸数6、835戸、罹災者数28、447人、死亡者657人。

13 平和の礎（貝の涙）



基本情報

所在： 弁天山公園
住所： 三重県鈴鹿市算所2
（近鉄電車 平田町駅 徒歩15分）
連絡先： 都合により記載せず
建立者： 弁天山公園モニュメント建立委員会
建立年： 平成2年5月2日

碑文

平和の礎

太平洋戦争もおわりに近い昭和二十年七月二十四日午前
十時三十五分 鈴鹿海軍工廠を目標に米軍機B29が投下した
爆弾が算所地区に落下し死傷者三十余家屋の崩壊
二十数戸羅災するものは実に百六十名を越える
大惨事となった
歲月は流れて四十有余年当時の一寒村も今は
市内有数の繁華街に発展してこの戦禍の史実
を知るものも数少なくなりつつある このたび市民
憩いの広場がこの地に完成を見ることとなった
私達はここに記念碑を建て亡きみ霊を鎮め
今日 心を新たに不戦の誓いを後世に伝え
たい 名づけて平和の礎とし この念願を
故郷に永く据えとどめるものである

平成二年五月二日

弁天山公園モニュメント建立委員会

題字 鈴鹿市長 衣斐 賢譲

14 志摩市戦没者追悼式



※写真提供 志摩市

開催概要 (平成23年度)

歳事名：志摩市戦没者追悼式 ※一般戦災死没者を含む
会場：志摩市阿児アリーナ ベイホール
(近鉄電車 鵜方駅 徒歩20分、車5分)
日時：平成23年9月2日(金) ※例年9月開催
参列者数：350人
連絡先：志摩市 健康福祉部 地域福祉課 0599-44-0283 (直通)

式次第 (平成23年度)

1. 開式のことば：志摩市副市長 柴原 時男
2. 国歌 斉唱
3. 式辞：志摩市長 大口 秀和
4. 一同黙とう
5. 追悼のことば：志摩市議会議長 小河 光昭
志摩市戦没者遺族会会長 羽根 弘夫
志摩市戦没者遺族会女性部長 仲野 けい子
6. 献花：市長、副市長、教育長
来賓
並びに遺族代表
7. 閉式のことば：志摩市副市長 柴原 時男

式辞 (平成23年度)

本日ここに、多数のご遺族、ご来賓ご臨席のもと、平成二十三年志摩市戦没者追悼式が厳かに挙行されるにあたり、市民を代表して、謹んで哀悼の誠を捧げます。

苛烈を極めた先の大戦が終わりを告げてから、六十六年の長い歳月が過ぎ去りました。今、こうして、激しい戦いのさなかに、祖国を思い、家族を案じつつ心ならずも戦場に倒れた方々、また国内外で戦禍に遭われ、命を落とされた方々、あるいは戦後、遠い異郷の地で無念にも最期を遂げられた方々に思いをはせるとき、悲痛の思いが尽きることなく込み上げてきます。

ここに、改めて戦没者の方々のご冥福を、心よりお祈り申し上げるとともに、最愛の肉親を失われ、決して癒されることのない悲しみを抱えながら、苦難を乗り越えてこられたご遺族の皆様のご労苦に、深く敬意を表します。

顧みますと、戦後、私たち国民一人ひとりが努力をし、また、幾多の困難を乗り越えながら、今日の平和で豊かな社会を築いてきました。私たちは、この享受することのできる平和と繁栄が、戦争による尊い犠牲の上に築かれてきたことを決して忘れてはなりません。

本式典は、わが国並びに本市復興の礎となられた多くの御霊(みたま)に対して、追悼の誠を捧げるとともに、ご遺族の皆様のこれまでの御労苦に対して深い敬意を表するものであり、また、市民の皆様とともに、世界の恒久平和実現への誓いを新たにしようとするものです。

国民の大半が戦争の悲劇を知らずに育った世代である今、先の大戦から学び取った貴重な教訓を深く心に刻み、戦争の悲惨さと平和の尊さを次の世代に語り継いでいかなければならないと思います。長い道のりではありますが、真に平和で豊かな社会を実現するため、そして、志摩市のなごり層の発展のために、私は、全力を尽くすことをお誓い申し上げます。

終わりに、本日の追悼式に込めた私たちの思いが、未だ戦火の絶えない世界にも届くことを念願するとともに、戦没者の御霊の「とこしえに安らかならん」ことを、そして、御遺族の皆様のご多幸、ご健勝をお祈り申し上げまして、式辞といたします。

平成二十三年九月二日
志摩市長 大口 秀和

15 三野瀬駅空襲犠牲者慰霊地蔵



基本情報

所在：三浦墓地
住所：三重県北牟婁郡紀北町紀伊長島区三浦1 8 2 付近
(JR三野瀬駅 徒歩1分)
連絡先：海蔵寺 都合により記載せず
建立者：都合により記載せず
建立年：昭和53年8月

碑文

【中央・表】

寄贈

昭和五十一年二月

海山町

相賀栄町

伊藤石材店

【右・表】

施主

(個人名)

【左・表】

昭和五十三年八月

(個人名)

経緯

昭和20年7月25日 ― 停車中の上下列車が機銃掃射を受け、
死者13名(資料によって死者数は異なる)を出した。

出典：三重県戦争資料館 ホームページより